



**「他力本願」**

「他力本願」という言葉は、浄土真宗において、み教えの核心に用いられる最も重要な言葉です。

浄土真宗の宗祖である親鸞聖人が「他力」とは、自然や社会の恩恵のことではなく、もちろん他人の力をあてにすることもありません。また、世間一般でいう、人間関係のうえでの自らの力や、他力という意味でもありません。「他力」とは、そのいずれをも超えた、仏と無縁な阿彌陀如来の力を表す言葉です。

「本願」とは、私たちの欲望を満たすような願いをいうではありません。阿彌陀如来の本願として「あらゆる人々に、真如阿彌陀仏を信じさせ、救えさせて、浄土に往生せしめよう」と誓われた願いのことです。この本願のとおり私たちを浄土に往生させ、仏に成らしめようとするはたらきを「本願」といいます。「他力」といいます。

私たち念仏者は、このような如来の本願のはたらきによる救いを、「他力本願」という言葉で表すことができましたのです。ここにほじめて、自らの本当の姿に気づかされ、いままでのちのちの生きと意識が明らかに知らされるのであり、人生を力強く生き抜いていくことができます。

つづきをご購入いただいております。